



図書だより 冬休み号

令和3年12月24日
開南幼稚園 永森 加奈

楽しい冬休みを

冬至が過ぎ、真冬到来となりました。明日から楽しい冬休み。お部屋でクリスマスやお正月を迎える歌を歌っている子どもたちは、冬休み(特にクリスマス)が待ち遠しい様子で、絵本を選ぶ際に、楽しみにしていることを話してくれる子が何人もいました。自分の思いを伝えることが上手になったと思います。

色々な絵本に出会うことで、言葉や知識が増えます。誰かと一緒に読むことで時間を共有し、思いを理解することができると思います。思いが伝わると、さらに意欲がわきます。お子様と一緒に読んで面白かった!という思いを共有してください。

年末年始は、習慣や風習など子どもたちに伝えたいことがたくさんあります。絵本を利用してご家庭でも話題にしてください。冬休みならではの経験をたくさんして、元気に新学期を迎えられますように。



ながもりさんのおはなしかい

- 「ケーキができたわけ」 (福音館)
- 「ピッキのクリスマス」 (福音館)
- 「ぐりとぐらのおきやくさま」 (福音館)
- 「サンタおじさんのいねむり」 (偕成社)
- 「おしょうがつさん どんどこどん」 (世界文化社)

クラスの希望に合わせて行っているおはなし会です。行事を楽しく迎えられるように、この時期ならではの絵本を読みました。クリスマスの絵本はどれにするか迷うほどたくさんありますが、年齢に合わせて選びました。どのクラスもお話が始めるととても集中し、聴く力が育っていると感じました。

ご協力お願いします

ご家庭で読まなくなった絵本を「絵本のリサイクルバザー」に寄付してください。1月26日までに“名前と冊数”のメモを添付して担任までお願いします。バザーは1月26日(水)~28日(金)の自由参観に行う予定です。



冬休みの貸出し

本日、2冊貸出ししました。お子さんと一緒に読んで楽しい時間をお過ごしください。

返却 1/11 (火) 始業式

自分で準備ができるよう

お子さんに声掛けをしてください

幼児期に大事なこと

「子どもの心により添う保育」がモットーの“りんごの木”を主宰している柴田愛子さんの講演会に参加しました。エピソードを交えたお話は私にとっても身近なことばかりで、実践していきたいことがたくさんありましたので一部紹介します。

“子どもが泣いているとき「どうしたの?」と言ってしまいが、泣いているときは言葉にならないもの。子どもの気持ちを汲み取り、「悲しかったね」とひとこと

言ってみる。感情をわかってあげる人がいると、気持ちが静まってくる。それが寄り添うということ。群れの中で心を豊かに。幼児期はたくさんの無駄な時間とことん体験してほしい。保護が必要な時期にたっぷりとした省略のない育ちをしてほしい。”

まだまだ伝えきれませんが、柴田さんの著書「こどものみかた 春夏秋冬」(福音館)に詳しく載っています

思い出の絵本

「からすのパンやさん」かこ さとし 作 (偕成社)

私がこの本に出会ったのは幼稚園でした。「家でも読みたい!」と買ってもらい、母に繰り返し読んでもらったことを覚えています。見開きいっぱい描かれたパンのページが大好きで、じっくりと一つひとつ見ていました。(私のお気に入りには“ぱんだパン”)家族で助け合う姿とおいしそうなパンに魅せられて、将来の夢がパン屋さんだった時期もあったことを思い出しました。

4羽の子がらすが大人になってそれぞれお店(おかしや・やおや・てんぷらや・そばや)を開く続編4冊も心あたたまる素敵な絵本です。ぜひ読んでみてください。
(りす担任 嶋 夏希)